

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	株式会社リプル			代表者名	早川 尚吾
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	役員	連絡先電話番号	08095458554
担当者役職	代表取締役	担当者氏名	早川 尚吾	連絡先E-mail	
住所	775-0512 徳島県海陽町那佐337番地55				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名	海陽町	連絡先部署	産業振興課		
担当者氏名	坂東 裕司	連絡先電話番号	0884-73-4161	連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	具体的課題への支援	事業名	スマート牡蠣養殖推進事業		
概要	水産養殖業におけるDXの推進 水産養殖における作業フローの見える化から、見える化されたフローにおけるKPIの設定、そのKPIをデジタル管理することで様々なスマート養殖への展開を実現する				
支援を求める分野	プロジェクトマネジメント支援 農林水産業				

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	803	令和8年1月28日	支援・助言&フォローアップ	実地
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和8年1月20日	支援・助言&フォローアップ(実地)	7時30分	16時30分	60
				活動時間（分）	480
2-2. 派遣場所	会場名	リプル大分漁場		最寄駅	中津駅
	所在地	〒871-0078 大分県中津市小祝525-10		最寄駅からの交通手段	レンタカーもしくは送迎

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	加藤 英夫				
評価	大変良い				
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	3日間の調査を統合し、実効性の高い人員シミュレーターを作成いただけた。これにより「地元高校生を採用する」という経営判断の根拠が明確になった。				
アドバイザーへの要望事項	今回のシミュレーションに基づき、次年度は実際の繁忙期における実測値との検証を共に行いたい。また、今回策定した採用計画に基づき入社する新人への教育カリキュラムへのアドバイスも期待している。				

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	12人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数		12		
4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果					
事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	全漁場のデータを統合し、事業全体として何名の人員が必要かを算出できていない。これに基づいた次年度の具体的な採用計画の策定が急務である。				
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	養殖作業フローを可視化し、作業効率を測るためのKPI（重要業績評価指標）を体系化すること。また、それに基づき、未経験者でも参入可能な効率的オペレーションの構築と、具体的な採用・人員計画の根拠を得ることを目的とした。				

<p>アドバイザーに支援を受けた内容</p> <p>(具体的にご記入下さい)</p>	<p>1. KPIの体系的整理: KGI(最終目標)からKPI(業績指標)、さらに現場レベルのプロセス/アクションKPI(行動指標)へのブレイクダウン。</p> <p>2. 工程の細分化と実態把握: 養殖工程の各作業を最小単位まで分解し、所要時間や季節変動による作業可能時間の制約をヒアリングに基づき整理。</p> <p>3. 独自シミュレーションの構築: 養殖特有の不確定要素を考慮し、想定シナリオごとに人員数と作業量の相関を算出するシミュレーションモデルの作成。</p> <p>4. 抜本的効率化の提案: 現行の作業前提(前例踏襲)を見直し、スマートツール活用を前提とした新フローの提案。</p>			
<p>支援を受け改善又は解決された内容</p> <p>(具体的にご記入下さい)</p>	<p>1. 戦略的な人員配置の可視化: シミュレーションにより、必要な作業量から逆算した「適正人員数」が明確になり、根拠のある採用計画が立案可能となった。</p> <p>2. 不適合フレームワークの回避: 当初想定「Value Stream Mapping」の限界を認識し、より養殖実態に即した管理手法へシフトできた。</p> <p>3. 採用活動の具体化: 算出したデータをもとに、徳島拠点にて来年度2名の採用(うち1名は地元高校新卒者)を決定。地域雇用創出の具体的な足がかりを得た。</p>			
<p>具体的な成果物</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シナリオ別人員・作業量シミュレーションシート ・次年度採用計画 	<p>①事業に係る計画書等を策定できた</p>		
<p>改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容</p> <p>(具体的にご記入ください)</p>	<p>今回の作業可能時間の把握はヒアリング(話ベース)に基づくものであるため、実際の気象条件や繁忙期の現場において、シミュレーション通りのパフォーマンスが発揮できるかの実証・検証が次年度の課題として残っている。</p>			
<p>アンケートの内容と分析結果</p>	<p>講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)</p> <p>アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。</p> <p>養殖チームを対象にヒアリング実施。「作業のどこに時間がかかっているかが数値で示され、改善の方向性が納得感のあるものになった」との回答が得られた。一方で、「時期による突発的な作業増への不安」も可視化されたため、これを今後のシステム開発の要件に反映させる予定である。</p>			
<p>4-3. 今後の計画</p>	<p>最も当てはまるものをリストより選択下さい</p>	<p>①予算は確保済みであり、年度内に推進する</p> <p>業務効率化: アドバイザーの提案に基づき、Oysmartアプリへのデータ入力項目の最適化と、現場でのアクションKPIの運用を開始する。</p>		
<p>4-4. 事業の最終的な目指す姿</p>	<p>「データに基づくスマート養殖」を海陽町のスタンダードとし、水産業未経験の若者や住民が安定して高収益を得られるモデルを確立する。これにより、地域の雇用を維持・創出し、持続可能な水産業の基盤を構築することを目指す。</p>			
<p>5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可</p> <table border="1" data-bbox="178 1632 934 1676"> <tr> <td data-bbox="178 1632 367 1676">掲載許可</td> <td data-bbox="367 1632 934 1676"><input type="radio"/>掲載可</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/</p> <p style="text-align: center; color: red;">なお<その他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください</p>			掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可			
<p>6. 地域情報化アドバイザー支援の様子</p>				
<p>今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。</p>				
				